

未来へ夢を育む学校



学校だより

9月号 学校長 右橋 康彦



「自分から関わる」楽しさを

夏休み中、地域のお祭りに足を運ぶ機会がありました。各町内会では、盆踊りやお神輿、子ども山車、模擬店、抽選会など、それぞれに工夫を凝らした催しが行われ、白幡小の子どもたちもたくさん参加していました。友達と楽しそうに模擬店を回ったり、子ども神輿に加わったりする姿を見ながら、地域の中でこうした時間を過ごせることのありがたさを感じました。

中でも、私の心に残った子どもの姿があります。あるお祭りで、大人の方々に交じって模擬店の準備を手伝っている子がいました。お祭りは、用意されたものを楽しむだけでも十分楽しいものです。でも、その子は楽しませてもらうだけではなく、自分もお祭りをつくる側に加わっていました。誰かに楽しんでもらうために自分も動く。そんなことにも楽しさや喜びを感じているように見え、うれしくなりました。お祭りでは、各町内会長さんともお話しすることができました。皆さん、「子どもたちの夏休みのよい思い出になれば」と、本当に熱い思いをもって準備をされていました。また、本校の教職員も手分けをして地域のお祭りに参加してくれました。90周年に向けて取り組んでいる「シラハタ小音頭」を盆踊りで踊ってくださった地域もたくさんありました。学校、家庭、地域、それぞれの場所で子どもたちが大切にされていることを改めて感じた夏休みでした。

私自身もこの夏、横浜市の研修に参加し、これからの学校づくりについて考える機会がありました。その中で改めて感じたのは、「どんな学校をつくりたいのか」「どんな子どもを育てたいのか」を明確にし、教職員はもちろん、保護者や地域の皆様とも共有していくことの大切さです。白幡小学校では、「たくましく生き抜いていく子どもの育成」を学校教育目標に掲げています。そのために、日々の授業や重点研究はもちろん、運動会などの行事、総合的な学習の時間、地域との関わりなど、様々な経験を大切にしています。その中で、これからさらに大切にしたいと思っていることが、「自分から関わる」ことです。用意されたことに参加するだけでなく、「やってみようかな」「自分にもできることがあるかな」と一歩踏み出してみる。学校のことにも、地域のことにも、自分から関わってみる。そうすることで、きっと見えるものも、感じることも、楽しさも変わってきます。そんな経験の積み重ねが、本校が大切にしている「五つの姿」にもつながっていくのだと思います。

そして今年は、創立90周年という特別な年です。11月14日(土)には記念式典を予定しています。子どもたちには、何よりこの90周年を楽しんでほしいと思っています。ただ、誰かが用意してくれたお祝いに参加するのではなく、「自分たちの学校のお祝い」として、自分から関わり、みんなでつくり、みんなで楽しんでほしいと思っています。そこでは、保護者やPTA、地域の皆様など、たくさんの大人との関わりも生まれることでしょう。

夏祭りで、大人に交じって準備をしていたあの子のように、自分もその場をつくる一人になる。そんな子どもたちの姿が、学校でも、地域でも、そして90周年の取組の中でもたくさん見られることを、今から楽しみにしています。